

平成 16 年度 春期 システム監査技術者 午後 解答例

この解答例は、独立行政法人 情報処理推進機構 情報処理技術者試験センターが公表しているものです。著作権は、同センターにありますので、その点ご注意ください。

問 1

設問 1 業務改革チームが、企業における BPR 導入の目的と戦略を理解し、ToBe モデル（あるべき姿）として具体化する役割を担っていることについて具体的かつ適切に記述していること。

設問 2 ERP の導入に当たっては、現状の業務プロセスや手続きを踏襲するにとどめず、ベストプラクティスに基づいて、追加開発を圧縮すべき点について具体的な提言として適切に記述していること。

設問 3 承認や決裁など、組織の内部統制手続が損なわれないように、ERP の適用を図る必要があることを理解し、低下が懸念されるコントロール及びその対策となる具体的なコントロールについて適切に記述していること。

問 2

設問 1 ぜい弱性の評価は、情報の重要性とは独立に行わなくてはならないことを適切に記述していること。

設問 2

(1) 予備機への切替えやバックアップからの復旧手続など、回復機能にかかる対策について適切に記述していること。

(2) 公開情報の更新前後のバックアップが取得されていないことから生ずるリスクについて適切に記述していること。

設問 3 異動、退職などに伴うアクセス権の付与対象者の更新が適切に行われているか、権限付与者とシステム上の権限登録者が分離されているか、権限を与えられた者がパスワード管理を適切に行っているかなどの運用面の統制項目について適切に記述していること。

設問 4 評価結果の妥当性の確認、残余リスクの内容に関する分析の必要性、講じる対策によって軽減されるリスク、また投資対効果などについて適切に記述していること。

問 3

設問 1 サービスセンタの運用状況に関する具体的な問題点（デュアルコントロール，物理かぎ管理，署名かぎ管理，ファイアウォールなどに関するもの）を指摘し，その問題点を放置した場合に想定されるリスク（署名かぎ漏えい，不正侵入，可監査性の喪失など）を具体的かつ適切に記述していること。

設問 2 デジタル署名とそれを復号して検証するために必要な証明書群及びそれらが有効であった時刻を証明する情報を適切に記述していること。

設問 3 電子記録の原本の非改ざん性を確認するために必要な情報を理解した上で，署名かぎの有効期限切れ更新に伴う存在時刻（タイムスタンプ）と再署名の付与について適切に記述していること。

*

問 4

設問 1 エラー発生を洩れなく把握することは，データの完全性を確保する上で重要である。データ変換処理において，このエラー発生を見落す可能性を理解し，その対策を適切に記述していること。

設問 2 債務データの作成（更新，入力）プロセス及び総勘定元帳データの作成（更新，入力）プロセスを十分に理解し，債務及び仕訳更新処理のエラー対処の完全性及び正確性，又は債務伝票入力の正確性を損なうことで債務データと総勘定元帳データに差異の生ずる原因を適切に記述していること。

設問 3 債務の確定（入力，承認）から振込データ送信までの一連のフローを理解し，適切な権限なしで債務データを作成できたり，保存されている振込データを直接変更できたりするアクセス権限の設定上の問題点を適切に記述していること。

設問 4 現状の手続と予定されている手続の統制の機能を十分に理解し，統制の実施者の違い及び職務分離の不適切性，及び統制の源泉となる情報の違いによって，統制が弱くなる原因及び内容（懸念される弱点）について適切に記述していること。

注：この解答例に関するメールでのご質問には、応じかねます。あしからずご了承ください。